

兵庫県青少年団体連絡協議会

<https://seidanren.net/>



青団連



兵庫県青少年団体連絡協議会 2021年度 加盟団体 23 団体（順不同）

兵庫県連合青年団	公益財団法人 神戸 YMCA
一般社団法人 兵庫県子ども会連合会	公益財団法人 神戸 YWCA
日本ボーイスカウト兵庫連盟	一般社団法人 神戸フットボールクラブ
一般社団法人 ガールスカウト兵庫県連盟	兵庫県青年洋上大学同窓会
一般財団法人 O A A (野外活動協会)	一般財団法人 兵庫県少林寺拳法連盟
兵庫県 B B S 連盟	兵庫県緑の少年団連盟
兵庫県ユースホステル協会	兵庫県モラロジー青少年団体連絡協議会
一般社団法人神戸青年会議所	兵庫県世界青年友の会
公益社団法人日本青年会議所近畿地区 兵庫ブロック協議会	一般社団法人 神戸国際支縁機構
兵庫県スポーツ少年団	NPO 法人 生涯学習サポート兵庫
兵庫県青年国際交流機構 (IYEO)	一般社団法人 いえしま自然体験協会
兵庫県商工会青年部連合会	

兵庫県青少年団体連絡協議会 調査研究委員会

委員長	山崎 清治 (生涯学習サポート兵庫 理事長)
委員	速水 順一郎 (兵庫県青少年団体連絡協議会 顧問)
委員	鈴木 武 (日本ボーイスカウト兵庫連盟 相談役)
委員	萩本 義郎 (いえしま自然体験協会 業務執行理事)
編集委員	名越 郁 (生涯学習サポート兵庫)
編集委員	高田 愛 (生涯学習サポート兵庫)

コロナ時代の

青少年活動に 求められるもの

～家庭の目線から考える～

『子どもの笑顔がはじけるために』

2022年3月兵庫県青少年団体連絡協議会

2021年度調査報告書

青少年活動に求められるもの ～家庭の目線から考える～

はじめに

目次 INDEX

はじめに 2

子どもを取り巻く環境について 3～5

- ・親子のコミュニケーションは変わらず豊かである
- ・子どもの将来になりたい職業を知っている保護者が減少している
- ・スポーツ関連の習い事が多い
- ・情報機器との上手な付き合い方を
- ・「地域で様々な人に関わる時間」が減り「塾や習い事で過ごす時間」は増えている

青少年活動について 6～8

- ・体験を重視し子どもが主体となった異年齢集団の活動
- ・期待するのは日常では体験できない「非日常」の活動
- ・チャレンジする子ども、自分で考えることのできる子どもを
- ・活動への期待はキャンプや冒険活動が人気

新型コロナウイルスの影響について 9～12

- ・コロナ禍でも家族だんらんや子どもとの時間を大切に
- ・子どもがストレス症状を示している
- ・子ども達が安全・安心に遊び活動できる場所の確保が課題
- ・ボランティア、大人も何かできることを

若者世代の青少年活動について 13～14

- ・社会人の活動は家庭でのコミュニケーションも豊かになる
- ・青少年活動で身につけたものは「他者との関わり」
- ・今後は、一人の人としての成長を願う保護者
- ・青少年活動の有用性は「子ども」だけではない

＜参考資料1＞ アンケート資料 15～16

提言 17

＜参考資料2＞ ひょうご青少年憲章 18



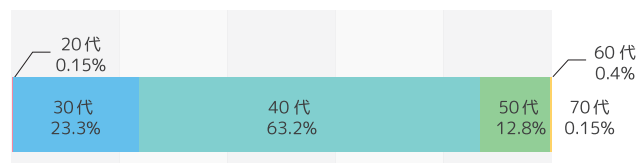
兵庫県青少年団体連絡協議会 調査報告書 2022年3月

調査の概要

今回の調査は、兵庫県青少年団体連絡協議会加盟の23団体の活動に、日常的に参加している子どもの保護者を対象に行いました。小学生～18歳未満の子どもの保護者486名、18歳～30歳未満の若者の保護者64名の方にご協力をいただきました。
調査実施期間：2021年11月24日～2022年1月10日

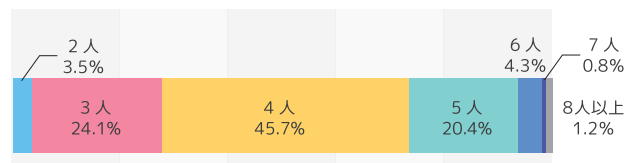
■回答者の年代

小学生～18歳未満の子どもの保護者

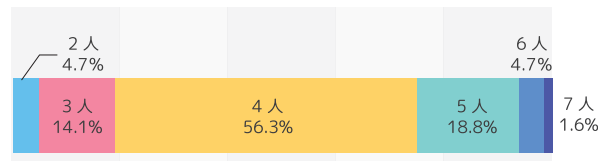


■家族構成

小学生～18歳未満の子どもの保護者

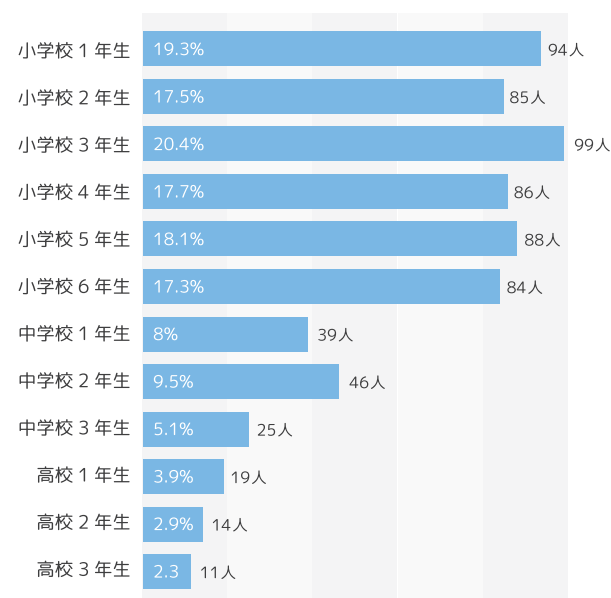


18歳～30歳未満の若者の保護者

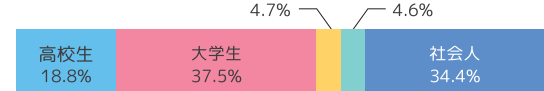


■青少年活動に参加している子どもの学年

(小学生～18歳未満)



(18歳～30歳)



「すべての青少年が 心も身体も健康に育つ兵庫」を目指して

兵庫県青少年団体連絡協議会（以下、青团連）は1967年から55年にわたり、県内で活動する青少年団体で協議会を発足して活動を続けてきました。時代の変化とともに求められる青团連のあり方を見つめなおし、ミッション、ビジョンの再定義、規約、運営組織の見直し、新しい理念を掲げ、新しい組織での運営をスタートしたのが2019年度です。その決意を胸に、子どもたちが健全に成長する「兵庫」であるため、また心身ともに健康に育つ環境づくりや、体験活動を提供する協議会加盟団体と共に歩みはじめて1年も立たないうちに、新型コロナウイルスの感染症の影響を受け、気がつけばもう2年の時が経ちました。私たちの青少年活動は人と人がつながること、支え合うことが全ての基盤であり、それを強みとしてきました。出会うこと、交わること自体が大きな制約、制限を受けているなかで、子ども達もまた同様にこれまで経験したことのない不安定な日常生活が続いています。

私たち青团連は、これまで、青少年活動に関わる重要課題に対する調査研究事業を行ってきました。コロナ禍ではありましたが、2020年度は兵庫県青少年本部委託事業として「新型コロナウイルス感染拡大に関する兵庫の青少年活動等への影響と課題」をテーマとし、このコロナ禍の時期に子ども達が生活面や心理面等でどのような変容を遂げているのか、その内容を検証し現状認識を深め、今後の青少年活動を共に考えました。そして今年度は、「青少年活動に求められるもの～家庭の目線から考える～」をテーマに、このコロナ禍において各家庭がどのような影響を受けているのか、またそこから青少年活動が果たす役割とは何かを検証するため、加盟団体にご協力いただき、アンケートをお願いしました。皆様のご協力により、550人の保護者の皆様からアンケートのご回答をいただくことができました。今回の調査は2013年の調査研究事業での質問項目などを共通にしたこともあり、当時との比較をすることもでき、大きな社会の変化も見えてきましたので、参考になれば幸いです。

兵庫県青少年団体連絡協議会 代表理事
公益財団法人神戸YMCA 総主事

井上 真二



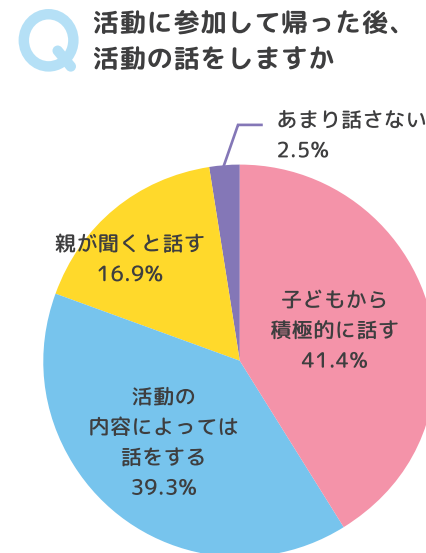
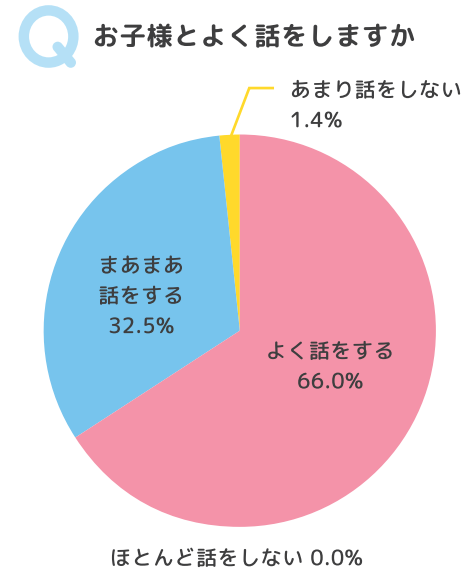
子どもをとりまく環境について

親子のコミュニケーションは変わらず豊かである

親子の会話については、「よく話をする」と「まあまあ話をする」を合わせたものが、2013 年度は95.2%で今回 98.5%である。前回よりも話をしている親子が増えているが、新型コロナウイルス感染症の影響による学校の臨時休校や、保護者の在宅勤務などが要因ではないかと考えられる。大多数の親子の会話がよくできていることは、子どもの成長や心の安定についても好影響を与えると考えられる。

社会性を身に付けるためには、集団生活において様々な体験から学ぶことが重要である。文部科学省実施の学力・学習調査(令和3年度)においても、地域とのかかわりに関し、「今住んでいる地域の行事に参加しているか」との質問に対し「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒は減少している。親子の会話だけでなく地域行事などに積極的に参加し会話や触れ合いが望ま

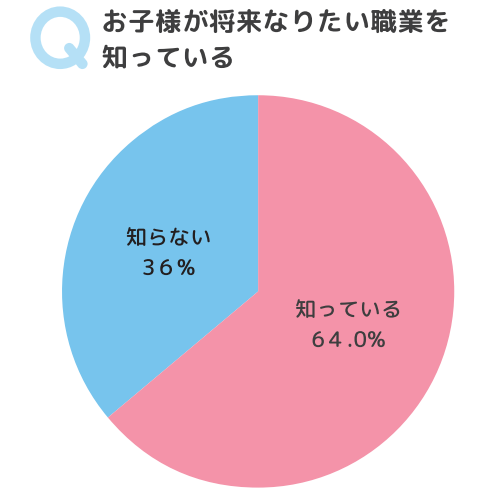
また、青少年活動に参加後の話は「積極的に話をする」41.4%、「活動の内容によっては話をする」39.3%と家庭内で活動の話をしている様子がうかがえる。ただし、「親が聞くと話す」は16.9%という一定の層もあることから、日常の子どもとの関わり方についても気をつけなくてはいけない。



子どもをとりまく環境について

子どもの将来なりたい職業を知っている保護者が減少している

コミュニケーションが豊かであるが、子どものなりたい職業について知っている保護者が、2013 年度は 70.9%で今回が 64.0%と減少している。知っていると答えた職業は、医療関係者 13.4%、調理人 10.3%、教員、保育士など 9.2%、建築関係 7.9%、警察官、消防士など 6.8%などが上位を占めている。2013 年度の調査と大きく異なるものは、YouTuber 3.8%、プログラマー・ゲームクリエイターなど 3.8%、グラフィックデザイナー 2.7%と IT、WEB 関係の職業が大きく入っているところである。8年ほどの間に様々な情報機器が生活の中に浸透をしてきている。情報機器を操作できることが社会生活の中で基本となりつつある今、大きな社会の変化に、私たち大人が取り残されていくかもしれない。



将来なりたい職業ランキング

1位	医療関係	13.4%
2位	調理人	10.3%
3位	学校教員、保育士、幼稚園教諭など	9.2%
4位	建築関係	7.9%
5位	警察官、消防士など	6.8%

スポーツ関連の習い事が多い

スポーツ関係に 70.0%、学習塾関連 50.0%、芸術 27.6%、習字が 22.0%、語学教室 20.8%が上位を占める。ICT 関連(プログラミング・パソコンなど) 2.5%となっている。文部科学省は、新たに取り組むこと、これからも重視することとして「プログラミング教育」「外国語教育」「伝統や文化に関する教育」「道徳教育」「言語能力の育成」「理数教育」などを掲げている。パソコンなどを活用した教育が重要になると考える保護者はさらに多くなると考えられる。語学教室に通う子どもたちも学校教育に外国語が導入されたことによると考えられる。また、このような状況下にあってもスポーツ関係の習い事に 70.0%の子どもたちが通っていることは特筆すべき事である。集団の中での体験を通して社会のルールや人を思いやる心、自分と異なったものを認める心や自分自身を律する心などの育成を願う保護者の願いの表れであると感じる。

習い事	2021年	2013年
スポーツ(運動)	70.0%	62.5%
学習塾	50.0%	33.9%
芸術(絵画・音楽)	27.6%	40.0%
習字	22.0%	-
語学教室	20.8%	19.7%
そろばん	11.3%	12.9%

子どもをとりまく環境について

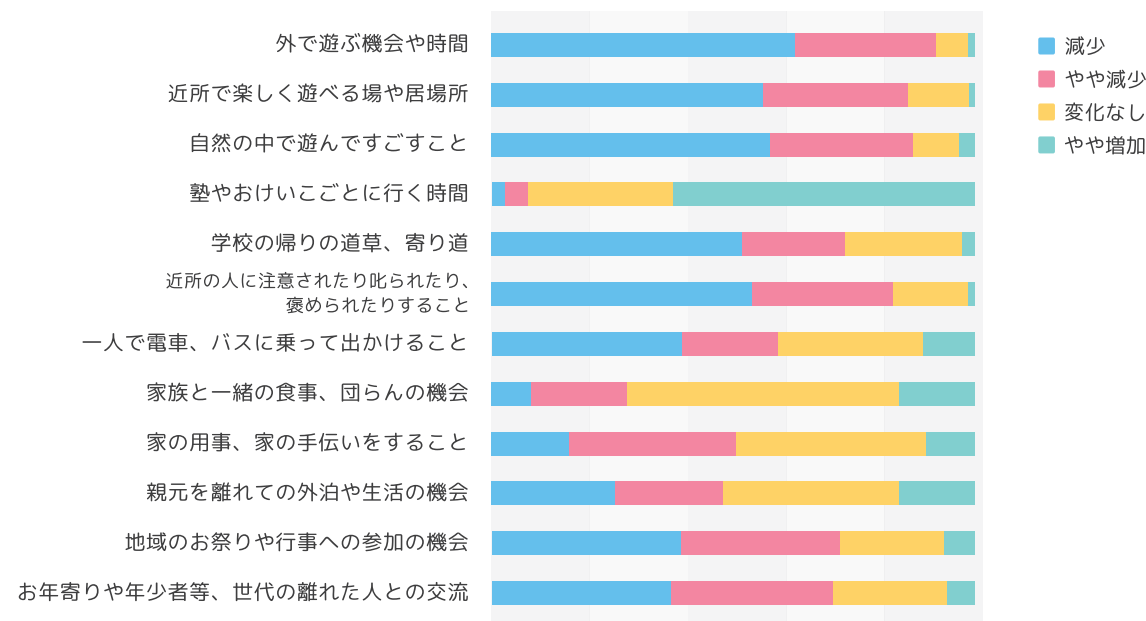
情報機器との上手な付き合い方を

個人用の電子機器は、学年が上がるにつれて所持率が上がる。「スマホ育児」という言葉もあるが、今回のアンケートの結果を見る限りでは、子どもが電子機器を持つ時期が他の調査結果に比べ遅いという結果が出ている。青少年団体の活動に子どもを参加させている保護者は、実体験を重視した考え方が根底にあるのではないかと考える。

	家庭用ゲーム機 (例プレイステーション等)	携帯ゲーム機 (例DS等)	携帯電話 (スマートフォン)	タブレット	テレビ	パソコン	何も 持っていない
小学1年生	17%	25%	11%	15%	2%	8%	40%
小学2年生	20%	26%	30%	8%	2%	8%	28%
小学3年生	18%	33%	20%	6%	0%	14%	24%
小学4年生	29%	38%	29%	5%	5%	17%	19%
小学5年生	33%	45%	24%	12%	3%	6%	12%
小学6年生	44%	41%	47%	3%	0%	21%	6%
中学1年生	45%	82%	45%	18%	0%	9%	0%
中学2年生	20%	40%	65%	5%	0%	35%	0%
中学3年生	0%	17%	83%	0%	0%	17%	0%
高校1年生	10%	40%	100%	0%	0%	30%	0%
高校2年生	25%	50%	100%	0%	0%	50%	0%
高校3年生	33%	67%	100%	0%	0%	33%	0%

「地域で様々な人に関わる時間」が減り 「塾や習い事で過ごす時間」は増えている

今の子どもたちに増えたこと、減ったこと



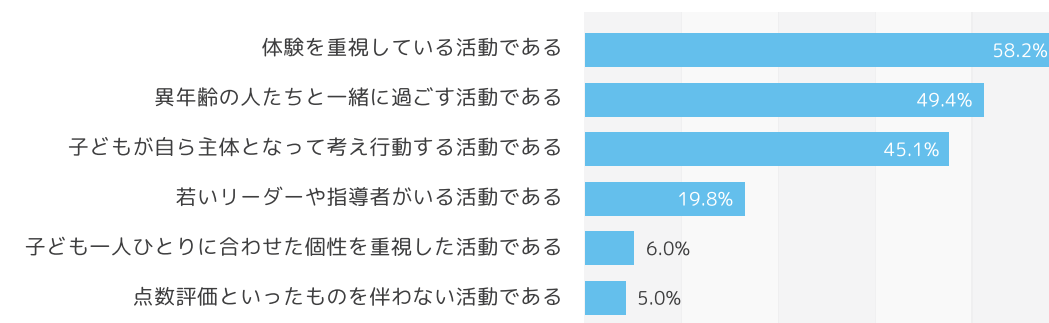
これは 2013 年度の調査と同じ傾向を示している。少子高齢化が進み、他人と関わる機会が減少し、家族や似た価値観を持つもの同士で過ごす時間が増えている。子どもが地域の人間や仲間の中での体験を通して人に共感し、支えあうことの素晴らしさを身に付けていくことは多い。「近所の人に叱られ、褒められる」の体験で様々な価値観について学ぶことができるはずである。

青少年活動について

体験を重視し子どもが主体となった異年齢集団の活動

青少年活動について子どもを参加させている保護者の意識は「体験を重視している活動である」が 58.2%、「異年齢の人たちと一緒に過ごす活動である」が 49.4%、「子どもが自ら主体となって考え行動する活動である」が 45.1%、「若いリーダーや指導者がいる活動である」が 19.8%、「子ども一人ひとりに合わせた個性を重視した活動である」が 6.0%、「点数評価といったものを伴わない活動である」が 5.0% の順になっている。2013 年度の調査では、「体験を重視している活動である」が 61.6%、「異年齢の人たちと一緒に過ごす活動である」が 51.0%、「子どもが自ら主体となって考え行動する活動である」が 27.18%、「若いリーダーや指導者がいる活動である」が 30.4% であった。2013 年度の調査結果と比較すると、「若いリーダーや指導者がいる活動である」の割合が 10.6%低下している。この原因については、コロナ禍で体験活動が滞ったことにより、異年齢間の交流が大きく減少したことが原因であると考えられる。体験活動の重要性は、多くの調査結果からも既に明らかになっている。バーチャルな体験が増えつつある時代だからこそ、なおさら実体験の機会が求められているのだろう。

青少年活動のイメージ



青少年活動について

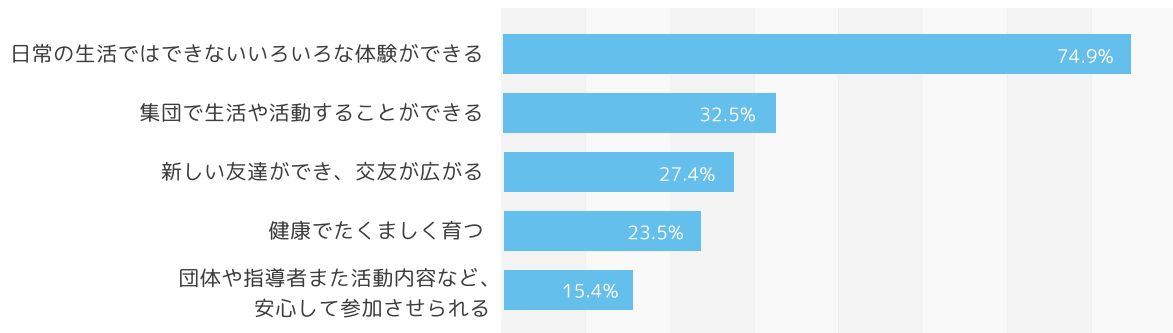
期待するのは日常では体験できない「非日常」の活動

子どもを青少年団体事業に参加させる保護者の思いや期待については、「日常生活ではできないいろいろな体験ができる」が 74.9%、「集団で生活や活動することができる」が 32.5%、「新しい友達ができ、交友が広がる」が 27.4%、「健康でたくましく育つ」が 23.5%、「団体や指導者、また活動内容など、安心して参加させられる」が 15.4% となっている。

2013 年度の調査では「日常生活ではできないいろいろな体験ができる」が 67.8%、「集団で生活や活動することができる」38.9%、「新しい友達ができ、交友が広がる」が 25.3% であった。2013 年度の結果と比較し今回は、「日常ではできない体験」が 7.1% 増加し、「集団で生活や活動することができる」が 6.4% 低下している。

非日常的な体験の重要性は私たちが阪神淡路大震災で実感したことでもある。科学技術が進歩し、様々なことを AI などが自動的に行う時代。災害などにより自動で動かなくなった時、知恵や技術を駆使し、自分自身で物事を解決する基礎的な能力を、体験により身に付けることが重要であると考え。

青少年活動に参加させる時の思いや期待



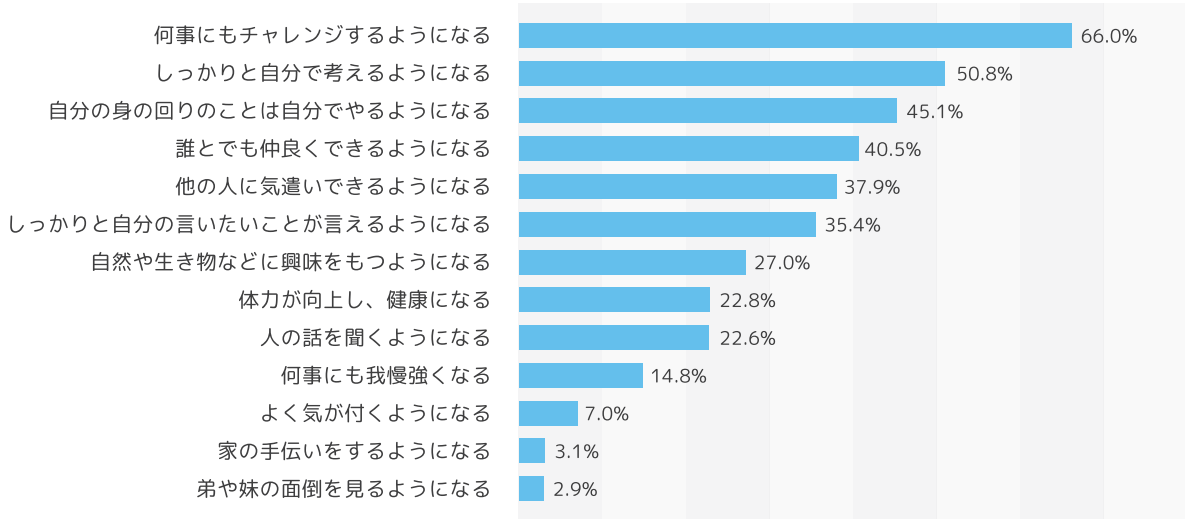
チャレンジする子ども、自分で考えることのできる子どもを

青少年活動を通じて、保護者が期待する子どもの変化として、「何事にもチャレンジするようになる」が最も多く66.0%、「しっかりと自分で考えるようになる」が50.8%、「自分の身の回りのことは自分でやるようになる」が45.1%、「誰とでも仲良くできるようになる」が40.5%、である。2013 年度は「何事にもチャレンジするようになる」が62.1%、「しっかりと自分で考えるようになる」が42.8%、「自分の身の回りのことは自分でやるようになる」が53.4% で、2013 年度に比べ、今回の結果は「何事にもチャレンジするようになる」が3.9% 増加、「しっかりと自分で考えるようになる」は8.0% 増加、「自分の身の回りのことは自分でやるようになる」は8.3% 低下している。

どの世代の保護者にもほぼ同じ傾向がみられるが、50 代の保護者は「自分の身の回りのことは自分でやるようになる」が「何事にもチャレンジするようになる」とほぼ同数あり、自分で出来ることへの意識の高さが見られた。

青少年活動について

青少年活動を通して期待している成長



活動への期待はキャンプや冒険活動が人気

保護者の多くは活動内容として、キャンプや冒険活動、ボランティア活動、国際交流活動を希望している。1 位「キャンプ」66.3%、2 位「冒険活動」32.1% となっているが、3 位は「ボランティア活動」21.8%、4 位「国際交流」20.4% となっており、以下「農業体験」17.1%、「スポーツ活動」14.8%、「ハイキング」14.6%、「集団遊び」13.2%、「世代間交流」10.3% の順になっている。2013 年度は「キャンプ」56.4%、「冒険活動」30.9%、「国際交流」27.6%、「ボランティア活動」23.5%、「スポーツ活動」21.6%、「農業体験」14.4%、「集団遊び」14.2%、「職業体験」13.7%、「世代間交流」13.1%、「ハイキング」12.9% であった。2013 年度と比較して、1 位、2 位に変化はないがどちらも割合は増加している。

青少年活動に希望している活動

2021 年			2013 年		
1位	キャンプ	66.3%	1位	キャンプ	56.4%
2位	冒険活動	32.1%	2位	冒険活動	30.9%
3位	ボランティア活動	21.8%	3位	国際交流	27.6%
4位	国際交流	20.4%	4位	ボランティア活動	23.5%
5位	農業体験	17.1%	5位	スポーツ活動	21.6%
6位	スポーツ活動	14.8%	6位	農業体験	14.4%
7位	ハイキング	14.6%	7位	集団遊び	14.2%
8位	集団遊び	13.2%	8位	職業体験	13.7%
9位	世代間交流	10.3%	9位	世代間交流	13.1%



新型コロナウイルスの影響について

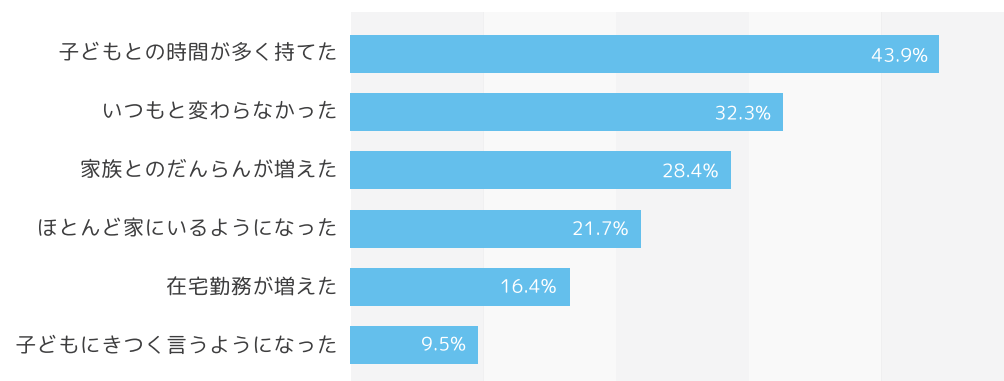
コロナ禍でも家族だんらんや子どもとの時間を大切に

「子どもとの時間が多く持てた」が 43.9%、「いつもと変わらなかった」32.3%、「家族とのだんらんが増えた」28.4%、「ほとんど家にいるようになった」21.7%、「在宅勤務が増えた」16.4%、「子どもにきつく言うようになった」9.5%、であった。

「ほとんど家にいるようになった」「在宅勤務が増えた」は職場等のコロナ感染予防対策に沿ったものであり、保護者の意思とは異なる面もある。

「子どもにきつく言うようになった」の割合は 10% 近くあった。一方、「家族だんらんが増えた」「子どもとの時間が多く持てた」あるいは「いつもと変わらなかった」など、新型コロナに左右されず、むしろ家族との時間を増やす機会と前向きに受け止めた家庭が多かったようである。すでにコロナ第 1 波から第 5 波まで経験し、新型コロナウイルスとの共生という環境下で、予防措置に配慮した生活様式を理解する結果、ストレスへの対応もできていたのではないだろうか。

保護者の生活や行動様式の変化



子どもがストレス症状を示している

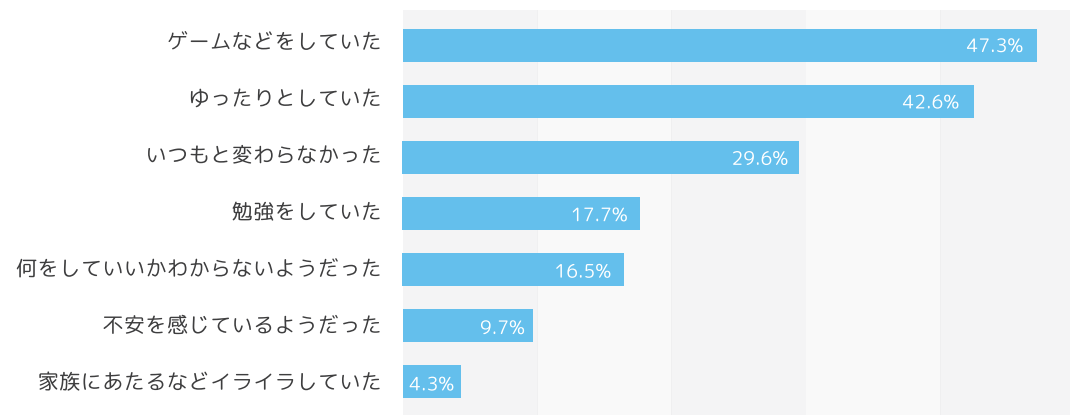
「ゲームなどをしていた」47.3%、「ゆったりとしていた」42.6%、「いつもと変わらなかった」が 29.6%、「勉強をしていた」17.7%、「何をしていたかわからないようだった」16.5%、「不安を感じているようだった」9.7%、「家族にあたるなどイライラしていた」4.3%だった。

「家族にあたるなどイライラしていた」「不安を感じているようだった」「何をしていたかわからないようだった」などは心の不安定な様子がかげえ、一種のストレス症状の表れと考えられる。従って 20% 以上の子どもが何らかのストレスを感じていたと言っても過言ではない。

保護者のストレスは約 10% であったのに対して、子ども達はストレス経験に乏しいためか、イライラ感、不安感、とまどい感などさまざまな形でストレスを感じていることがうかがえる。将来、子ども達は成長する中でさまざまなストレスに遭遇することになる。今回を契機に、子ども達とストレスについて話し合うことの重要性を感じた。

新型コロナウイルスの影響について

子どもの生活や行動様式の変化

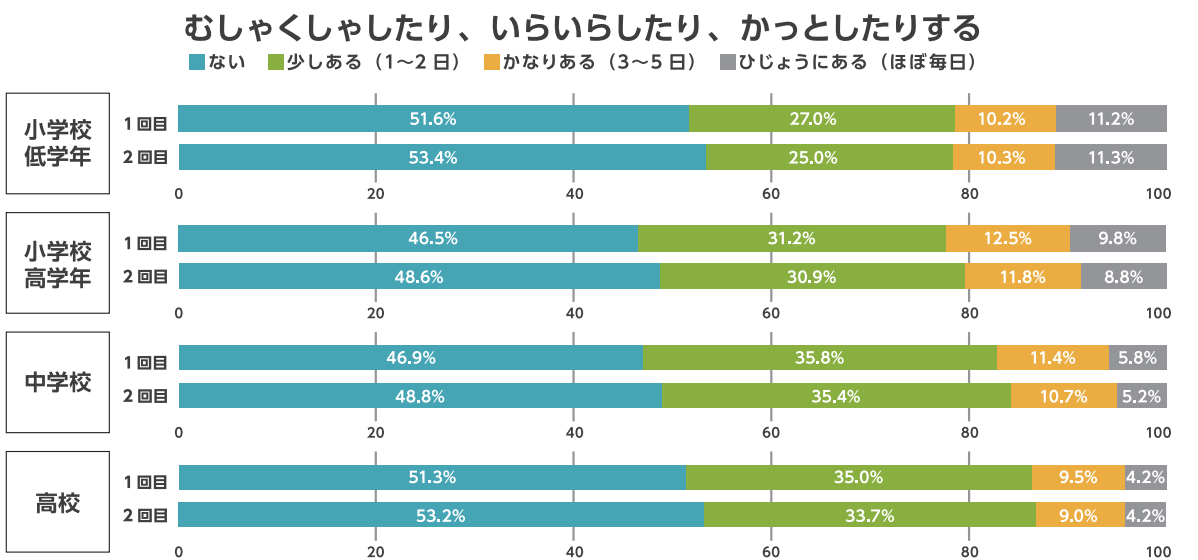


兵庫県教育委員会が 2020 年 9 月に『新型コロナウイルス感染症の影響に関する心のケアアンケート第 2 回調査結果』で 4 万人を超える児童、4 千人を超える保護者を対象とした結果が報告されている。とくに新型コロナ時のストレス頻度について参考までその一部を紹介する。保護者のストレスと児童・生徒のストレス頻度は、「ひじょうにある(ほぼ毎日)」「かなりある(3～5 日)」「少しある(1～2 日)」の総計が 50% 前後とほぼ同じ傾向を示していた。

本調査時期は 2020 年 9 月～10 月で新型コロナ第 2 波の時期であることや、調査方法も今回の調査とは異なることから、直接比較はできないが、今回のアンケート対象の保護者の結果とはだいぶ乖離している。これは調査時期の違いも考えられるが、青少年活動に参加している子どもの保護者、すなわち青少年活動に理解を有する保護者のストレス耐性の高さもうかがえる。

心とからだのストレスについて (5 項目)

・「むしゃくしゃしたり、いらいらしたり、かっとしたりする」の質問に対して、「ない」と回答した児童生徒は、すべての学年で約 2 ポイント増加している。
[小学校低学年 53.4% (+1.8)、高学年 48.6% (+2.1)、中学校 48.8% (+1.9)、高校 53.2% (+1.9)]



* 参考: 「新型コロナウイルス感染症の影響に関する心のケアアンケート」兵庫県教育委員会ホームページより

新型コロナウイルスの影響について

子ども達が安全・安心に遊び活動できる場所の確保が課題

「安全に外で遊ぶ機会」が 68.1%、「キャンプなどの野外活動」が 61.5%、「学校が休みの日に子どもが安全に過ごす機会」が 40.1%、「放課後に子どもが安全に遊ぶ機会」15.6%、などが上位 4 項目の回答例であった。注目すべきは、回答のほとんどのキーワードは「安全・安心」である。新型コロナ禍だけの問題ではないが、とくに引きこもりになりがちなこうした時期に、平日、休日を問わず子ども達が自由に「安全・安心」して活動できる場所の確保と野外での活動を保護者は切望しており、このような場所の確保が喫緊の課題である。

夕暮れ時、街を歩いていると公園で小学生らしい複数の子ども達の遊ぶ姿をみることがある。まもなく晩ご飯の時間かと思われるが元気に遊ぶ子ども達をみていると、こんな時間まで友達と夢中になって遊ぶ子ども達がまだいるのかと、つい見入ってしまう。私たちが子どもの頃では、これが普通の光景であった。しかし、今どきの世相を思えば、保護者にとっては子ども達だけで遊ばせること自体、心配の種でもあろう。子どもや保護者ももっと自由に野外でのびのびと自然に親しみながら活動ができる場所の確保が急がれる。

ボランティア、大人も何かできることを

ボランティア活動に参加したことの「ある人」は 57.4%、「ない人」は 42.6%という結果であった。ただし、回答された方々の「ボランティア活動」への認識には少し個人差があるように思われる。ボランティア活動内容内訳で最も多いのは「清掃活動」30.9%であり、地域のゴミ拾いだけでなく、公園、河川、海岸、草刈り作業なども含まれている。「募金各種活動」18.9%は、ユニセフ、赤い羽根募金、災害救援募金、あしなが育成募金などの他、献血やフードバンクなども含めている。「育児・学童・学校への支援」18.9%は、保育園支援、育児サークル支援、地域見守り、読み聞かせ、学校保護者会、養護施設や障がい者への支援など多岐にわたっている。「指導者としての支援」14.3%は、専門的技術を必要とする奉仕活動などを意味しており、例えば、キャンプリーダー、ライフセービング、外国人への語学指導、手話通訳、点字、自然観察、青少年活動の指導者などを含む。「障がい者・介護・高齢者への支援」10.8%は、障がい者の介添え、障がい児との交流、老人ホーム慰問や話し相手、介護補助、食事の提供など、多彩である。「災害復興支援」10.4%は、東日本大震災発生時や洪水氾濫時など災害地での支援活動が中心となる。「イベント各種支援活動、その他」7.7%は、地域や障がい者のスポーツ大会のイベント支援、地域のお祭りや成人式警備などの活動である。

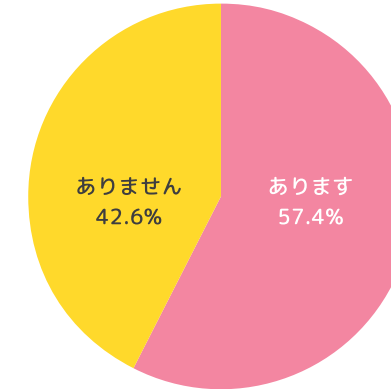
この度、青少年活動に所属する子どもの保護者の半数以上が多彩な活動に取り組んでいることを理解できた。地域社会や地球環境を守るために、私たちが今できる行動を起こし、より良き社会になるよう努めていきたいと思う。また、私たちの活動する後ろ姿を子ども達に見せることができれば最高である。



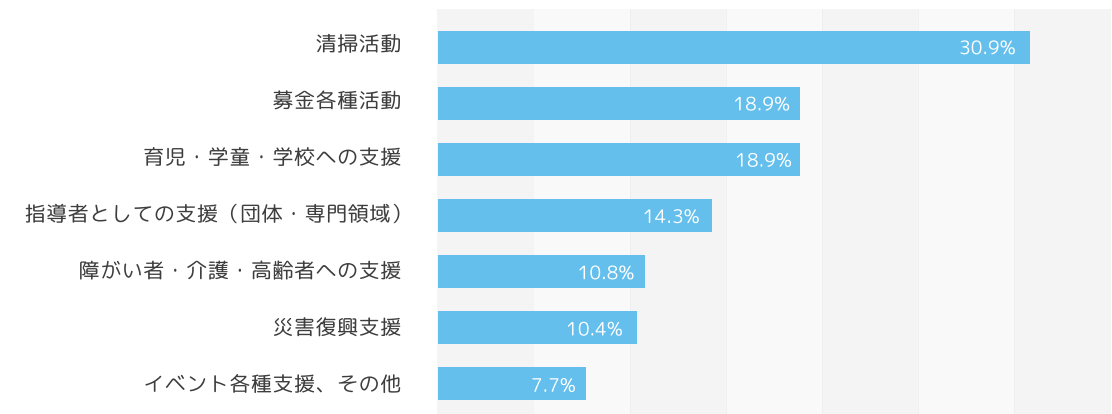
新型コロナウイルスの影響について

あなたはボランティア活動に参加したことがありますか

484 件の回答



ボランティア活動の内容

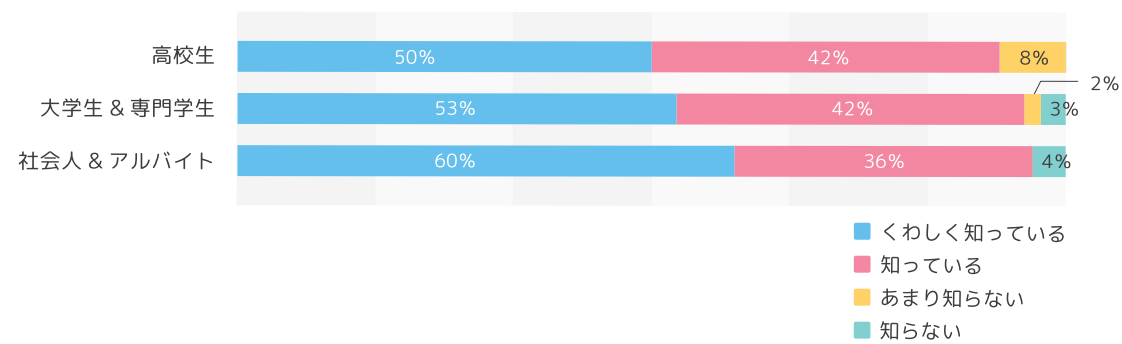


若者世代の青少年活動について

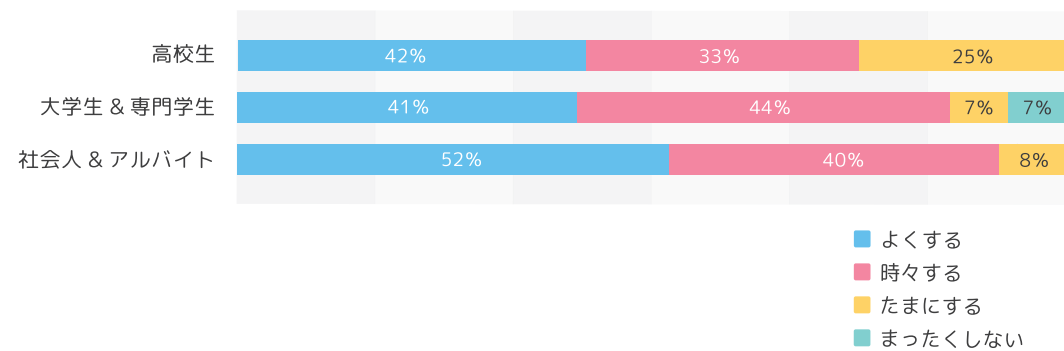
社会人の活動は家庭でのコミュニケーションも豊かになる

活動に関わる年齢があがればあがるほど、その活動を行なっていることや活動の内容などを家族に伝えていない傾向にあると予想されたが、本アンケートの結果を見ると、まず、全ての高校生が自分の保護者に、活動をしていることやその内容を話していることがわかる。そして、大学生の時期に、一旦その傾向は少し下がったものの、社会人になると、家族に話をしていない若者は再び 0%となる。大学生時代に、子どもの活動を知らない人が一時上がるのは、一人暮らしの可能性や、バイトやサークルなどスケジュール的な要因があると考えられる。また、社会人になると、全ての家庭で保護者と活動のことについて話をしていることから、青少年活動についての内容は、子どもだけではなく若者世代になっても、家庭での会話の一つのテーマになっていると想像される。

青少年活動やボランティア活動を行っているのを知っていますか



活動について話をしますか



若者世代の青少年活動について

青少年活動で身につけたものは「他者との関わり」

高校生、大学生・専門学校生、社会人のどの世代にも表れた成長は「他の人に気遣いできるようになった」や「誰とでも仲良くできるようになった」が上位を占めている。子ども世代だけでなく、若者世代になっても他者とのコミュニケーション能力やコラボレーション能力が青少年活動で身につけた力であると認識している保護者が多いことがわかる。

	1 位	2 位
高校生	他の人に気遣いできるようになった（27.6%）	しっかりと自分で考えるようになった（20.7%）
大学生 & 専門学生	誰とでも仲良くできるようになった（16.4%）	他の人に気遣いできるようになった（11.9%）
社会人 & アルバイト	誰とでも仲良くできるようになった（16.4%）	しっかりと自分で考えるようになった（14.9%）

今後は、一人の人としての成長を願う保護者

どの世代にも共通して期待されているものは「物事に自ら進んで取り組む資質を身につけること」である。保護者は若者世代に成長した子どもに対し、他者との関わりは一定数の成長を実感しながらも、自分の考えや意見を持って主体的な行動ができるように願っていると考えられる。これは最近、多くの企業や組織が持っている自律型人材の育成というテーマとも同じある。組織や集団の中でこそ、自律意識は成長すると言われていることもあり、保護者が青少年活動やその団体の運営を通じて、社会の中で必要される人格的なスキルを身につけてほしいと願っていることがわかる。

	1 位	2 位
高校生	物事に自ら進んで取り組む資質を身につけること（21.7%）	いろいろな人と協議できたり和やかに過ごせたりすること（17.4%）
大学生 & 専門学生	意見や立場の違いを認識理解できるようになること（24.6%）	物事に自ら進んで取り組む資質を身につけること（19.3%）
社会人 & アルバイト	物事に自ら進んで取り組む資質を身につけること（26.2%）	意見や立場の違いを認識理解できるようになること（23.8%）

青少年活動の有用性は「子ども」だけではない

青少年活動を高校生世代、大学・専門学校生世代、社会人世代まで続ける、もしくは行うことによって、保護者と本人との会話が促進されるだけでなく、保護者が子どもに対して成長を感じ、また、継続してさまざまな期待をかけていることがわかる。若者世代の青少年活動は子ども世代に対する指導者としての役割を果たしているだけでなく、その役割を通じて、家族との関係性や個人の人格の醸成にもつながっていることがわかる。

アンケート資料

アンケート資料

小学生以上 18 歳以下の青少年活動に参加している保護者向けアンケート

- (1) あなた（回答者）の年代を教えてください
①20 歳代 ②30 歳代 ③40 歳代 ④50 歳代 ⑤60 歳代 ⑥70 歳以上
- (2) 家族構成を教えてください
①2 人 ②3 人 ③4 人 ④5 人 ⑤6 人 ⑥7 人 ⑦8 人以上
- (3) その内 18 歳未満の人数を教えてください
①1 人 ②2 人 ③3 人 ④4 人 ⑤5 人 ⑥6 人 ⑦7 人
- (4) お子様の学年（青少年活動に加盟（参加）しているお子様）の該当年齢に☑を入れてください（複数のお子様に参加している場合はすべてに）
☐ 小学 1 年生 ☐ 小学 2 年生 ☐ 小学 3 年生 ☐ 小学 4 年生 ☐ 小学 5 年生 ☐ 小学 6 年生
☐ 中学 1 年生 ☐ 中学 2 年生 ☐ 中学 3 年生 ☐ 高校 1 年生 ☐ 高校 2 年生 ☐ 高校 3 年生
- (5) お子様とよく話をしますか
①よく話をする ②まあまあ話をする ③あまり話をしない ④ほとんど話をしない
- (6) お子様が将来なりたい職業は
①知っている ②知らない
- (7) 知っている場合 それは何ですか
[]
- (8) お子様をどのような習い事に行かせていますか
①行かせていない ②学習塾 ③語学教室 ④スポーツ（運動） ⑤そろばん ⑥習字 ⑦芸術（絵画・音楽） ⑧その他
- (9) お子様が持っている個人用の電子機器に☑を入れてください
☐ 何も持っていない ☐ テレビ ☐ パソコン ☐ 携帯電話（スマートフォン） ☐ 携帯ゲーム機（例 DS 等） ☐ 家庭用ゲーム機（例プレイステーション等）
☐ その他

<子どもを取り巻く環境について>

あなたの子どもの頃と比べ、今の子どもたちに増えたこと、減ったこと（体験・機会）はどのようなことでしょうか。
 （減少 やや減少 変化なし やや増加より選択）

- ②外で遊ぶ機会や時間 ③近所で楽しく遊べる場や居場所 ④自然の中で遊んですごすこと ⑤塾やおけいこに行く時間 ⑥学校の帰りの道草、寄り道
⑦近所の人に注意されたり叱られたり、褒められたりすること ⑧一人で電車、バスに乗って出かけること ⑨家族と一緒に食事、団らんの機会
⑩家の用事、家の手伝いをすること ⑪親元を離れての外泊や生活の機会 ⑫地域のお祭りや行事への参加の機会
⑬お年寄りや年少者等、世代を離れた人との交流

＜青少年活動について＞

- (1) 青少年活動についてどのようなイメージをお持ちですか。特に当てはまると思われるもの 2 つ以内に☑を入れてください
- ☐ 異年齢の人たちと一緒に過ごす活動である ☐ 体験を重視している活動である ☐ 子どもが自ら主体となって考え行動する活動である
- ☐ 点数評価といったものを伴わない活動である ☐ 子ども一人ひとりに合わせた個性を重視した活動である ☐ 若いリーダーや指導者がいる活動である
- (2) 青少年団体が実施する事業に参加させるときにどんな思いや期待をお持ちですか。特に当てはまると思われるもの 2 つ以内に☑を入れてください
- ☐ 健康でたくましく育つ ☐ 日常生活ではできないいろいろな体験ができる ☐ 仕事の都合で、親が連れていけない
- ☐ 団体や指導者、また活動内容など、安心して参加させられる ☐ 新しい友達ができ、交友が広がる ☐ 集団で生活したり活動することができる
- ☐ 規則正しい生活ができたりルールやマナーを身につけることができる
- (3) 青少年団体活動を通じて、子どもにどのような変化（成長）を期待しますか。特に当てはまると思われるもの 5 つ以内に☑を入れてください
- ☐ よく気が付くようになる ☐ 何事にもチャレンジするようになる ☐ 他の人に気遣いできるようになる ☐ 誰とでも仲良くできるようになる
- ☐ 家の手伝いをするようになる ☐ 弟や妹の面倒を見るようになる ☐ しっかりと自分の言いたいことが言えるようになる ☐ 人の話を聞くようになる
- ☐ 自分の身の回りのことは自分でやるようになる ☐ しっかりと自分で考えるようになる ☐ 自然や生き物などに興味を持つようになる
- ☐ 体力が向上し、健康になる ☐ 何事にも我慢強くなる
- (4) 活動に参加して帰った後、活動の話をしますか
- ☐ 子どもから積極的に話す ☐ 活動の内容によってはよく話すこともある ☐ 親が聞くと話す ☐ あまり話さない
- (5) 青少年活動にどのような活動を希望しますか。特にあてはまると思われるもの 3 つ以内に☑を入れてください
- ☐ キャンプ ☐ 科学実験 ☐ 漁業体験 ☐ 農業体験 ☐ 林業体験 ☐ 冒険活動 ☐ 料理体験 ☐ ハイキング ☐ スポーツ活動 ☐ 音楽活動 ☐ 国際交流
- ☐ 職業体験 ☐ 伝承文化活動 ☐ 世代間交流 ☐ ボランティア活動 ☐ 災害復旧時支援体験 ☐ 非常時対応知識技能 ☐ ウォーキング ☐ 環境活動 ☐ 旅
- ☐ 集団遊び

(1)

＜新型コロナウイルスの影響について＞

- (1)【保護者】新型コロナの流行で緊急事態宣言が出され生活や活動様式が大きく変化しました。
あなたの生活はどのように変わりましたか（複数回答可）
- ①家族とのだんらんが増えた ②子どもとの時間が多く持てた ③在宅勤務が増えた ④ほとんど家にいるようになった ⑤子どもにきつく言うようになった
⑥いつもと変わらなかった
- (2)【お子様】新型コロナの流行で緊急事態宣言が出され生活や活動様式が大きく変化しました。
お子様の生活はどのように変わりましたか（複数回答可）
- ①ゆったりとしていた ②勉強をしていた ③ゲームなどをしていた ④家族にあたるなどイライラしていた ⑤不安を感じているようだった
⑥何をしてもいいかわからないようだった ⑦いつもと変わらなかった
- (3)新型コロナで青少年団体にしてほしいこと（複数回答可）
- ①安全に外で遊ぶ機会 ②キャンプなどの野外活動 ③学校が休みの日に子どもが安全に過ごす機会 ④放課後に子どもが安全に遊ぶ機会

<その他>

- (1) あなたはボランティア活動に参加したことがありますか。
①あります ②ありません
- (2) ボランティア活動をしたことがある方 どのような活動でしたか
〔
- (3) あなたが【登録・加入・参加している】団体に☑してください
兵庫県青少年団体連絡協議会加盟団体(23団体)より複数選択可
- (4) あなたが【知っている】青少年団体に☑してください
兵庫県青少年団体連絡協議会加盟団体(23団体)より複数選択可

18 歳 ～ 30 歳未満の青少年活動に参加している若者の保護者向けアンケート

- (1) 何人家族ですか
① 2人 ② 3人 ③ 4人 ④ 5人 ⑤ 6人 ⑥ 7人 ⑦ 8人以上
- (2) 青少年活動に参加しているお子様の所属と年齢を教えてください（お子様が複数人いらっしゃる場合は、1名のみ限定しお答えください。）
所属：①高校生 ②大学生 ③専門学生 ④アルバイト ⑤社会人
年齢：18歳～30歳まで

<活動について>

- (1) あなたのお様が青少年活動やボランティア活動を行っているのをご存知ですか
- ①くわしく知っている ②知っている ③あまり知らない ④知らない
- (2) 活動団体はどちらですか
- 兵庫県青少年団体連絡協議会加盟団体 (23 団体) より複数選択可
- (3) 活動について話をしますか
- ①よくする ②時々する ③たまにする ④まったくしない
- (4) 青少年活動やボランティア活動を通じて、どのような変化 (成長) がありましたか。
- 特に当てはまると思われるもの 3 つ以内に☑を入れてください
- ☐ よく気が付くようになった ☐ 何事にもチャレンジするようになった ☐ 他の人に気遣いできるようになった ☐ 誰とでも仲良くできるようになった
- ☐ 家の用事をするようになった ☐ 兄弟姉妹の面倒を見るようになった ☐ しっかりと自分の言いたいことが言えるようになった ☐ 人の話を聞くようになった
- ☐ 自分の身の回りのことは自分でやるようになった ☐ しっかりと自分で考えるようになった ☐ 自然や生き物などに興味を持つようになった
- ☐ 体力が向上し、健康になった ☐ 何事にも我慢強くなった
- (5) 青少年団体活動 (ボランティア活動) に何を期待しますか。特に当てはまると思われるもの 2 つ以内☑を入れてください
- ☐ 物事に自ら進んで取り組む資質をみにつけること ☐ 自分の意見をきちんと言えるようになること ☐ 意見や立場の違いを認識理解できるようになること
- ☐ 秩序やルール、人との約束を守れるようになること ☐ 他人に働きかけ、関係性を積極的に作れるようになること ☐ 人の話、意見を丁寧に聞く力
- ☐ いろいろな人と協調できたり和やかに過ごせたりすること ☐ 不安、緊張、ストレスに対処、対応できるようになること

(2)

提言

『子どもの笑顔がはじけるために』

提言

1.

家庭内での会話を大切にしよう。
また、青少年団体は家庭内の話題のひとつとなるよう
家族に活動内容などを共有する工夫をしよう。

2.

非日常時にストレスを感じやすい子ども達の
さまざまなサインを見逃さず、
子どもとの対話を通じてこれからのメンタルヘルスについて
考える機会にしよう。

3.

おのずとバーチャルが増えてしまう環境だからこそ、
自然体験などの実体験を通じて、応用力や人と協働する力を培い、
感動や驚きを人と共感できる機会を増やそう。

4.

青少年団体は子どもが多様な価値観や環境のひと
安全安心につながるができるよう、
WEB などさまざまな方法を活用しプログラムや場を創出しよう。

5.

青少年団体はその理念や活動目的をより深く理解されるように努め、
団体の理解者、支援者を増やそう。

ひょうご青少年憲章

いま、私たちは暮らしや社会のあり方が大きく移り変わる転換の時代にありますが、
先の阪神・淡路大震災は、人と社会に何が必要なのかを改めて教えてくれました。

私たちは、これまでの自分の生き方を省みて人間生活の基本に立ち返り、

自らを尊ぶと同時に、家庭や地域や国、

そしてかけがえのない地球に生きる人間として、ひょうごの明日を担う青少年とともに、
自信と夢と勇気をもって 21 世紀を築いていくことを誓い、この憲章を定めます。

- 1 自分を大切にし、自らを律し、行いに責任をもって生きていこう
- 2 ふれあいを深め、正義感をもち、社会を担う一人として生きていこう
- 3 人の痛みや喜びを感じあえる心をもって生きていこう
- 4 多様な人々の存在を受け入れ、ともに支えあって生きていこう
- 5 自然を愛し、生命を尊び、みえない世界にも襟を正して生きていこう
- 6 先人に学び、明日に夢をえがき、勇気をもって未来を拓いていこう

「ひょうご青少年憲章」の考え方

自尊・自律

自分を大切にし、自らを律し、
行いに責任をもって生きていこう

自ら考え、自ら判断し、自らを律していく自律性は、人間の本性に属します。
そこで人は、おのおの自らを尊重し自信と誇りをもつとともに、権利や自由だけではなく、それらと不可分に結び義務や責任も果たしていくことが欠かせません。

協力・公正

ふれあいを深め、正義感をもち、
社会を担う一人として生きていこう

人間は社会的な存在であり、人々の協力・協働によって暮らしを営んでいます。
人と人とのふれあいを深め、社会の基本的なルールを守り、社会の構成員としての役割を担っていくことが望まれます。

思いやり

人の痛みや喜びを
感じあえる心をもって生きていこう

人間関係には、利害にもとづく合理的な関係と、それを越えた心のかよいあいがあり、温かい人間関係を生みだすのは後者です。
そこで、人間的なぬくもりのある社会関係が形成されていくには、どうしても共感や思いやり、あるいは友愛の心が育まれていくのではありません。
そうでなければ、人間関係は合理性のみを追求するものとなり、人間的なぬくもりは消えていくことになるでしょう。

寛容・共生

多様な人々の存在を受け入れ、
ともに支えあって
生きていこう

社会は、自分と異なる立場にあたり、様々な価値観をもった人々で成り立っています。
社会の急速な変化のなかで、価値観やライフスタイルの多様化が進み、人・モノ・情報などの地球規模での交流も加速しています。
このような状況のなかで、調和ある共生社会を構築するためには、人々が互いの違いを認めあい、尊重しあうことが不可欠です。

畏敬

自然を愛し、生命を尊び、
みえない世界にも
襟を正して生きていこう

古来、私たちの先祖は、美しくも厳しい自然を畏敬の念をもって見つめ、その営みに自らの生活をあわせながらひたむきに生きてきました。
しかし急速な科学技術の発達や経済の発展の中で人知と人力に対する過信が生じ、自分と自分を取り巻く世界に対する敬虔さといったものが失われ、人・社会・自然の調和は崩されてきました。
私たちは、今一度、人間生活の基本にかえり、自分たちの暮らしや生き方を見直していくことが大切でしょう。

創造

先人に学び、明日に夢をえがき、
勇気をもって未来を拓いていこう

理想や夢を抱き、その実現に向けて努力することは、人間だけに備った特性であり、人や社会のありようを決定する基礎となります。21 世紀がどのような社会となるか、また、各自の生き方がどのようなものになるかは、私たち一人ひとりが何を理想とし、どう行動していくにかかっています。
私たち大人が、“こころの豊かさ”を大切にしながら、自信と誇りをもって生活していくとき、子どもたちも温かい思いやりの心や明日をたくましく切り拓く力を身につけて、勇気をもって希望に満ちた未来へ大きく羽ばたいていけるようになることでしょう。